

資源。プラッグ掲げ高度化

プラスチックリサイクルビレッジ

機器製造と再生業者、商社で

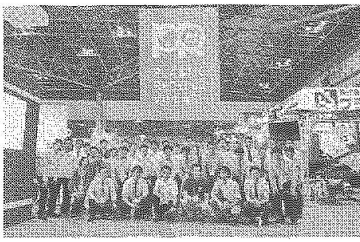
中国、原油見据え
中長期見据え

リサイクル関連機器メーカー、再生原料商社など9社共同によるコンソーシアム「ペラプラスチックリサイクルビレッジ」(以下、ビレッジ)は、各社が有する最新技術と顧客からの要望に応えるネットワークにより、持続的で質の高い新しいリサイクルの姿を提案する。ビレッジ参画企業などで昨年からは提唱してきた「資源プラスチック(資源プラ)」「リサイクル処理をした高品質の有価取引プラスチック

を加工・提供する取り組みも訴える。2013年からコンソーシアムによる取り組みを始めた。マテリアルリサイクルの他、昨年はプラフ燃料製造プラントも共同で受注した。ビレッジに参画するのは山本製作所、日本シーム、サンモア、テクノリンクス、プラントシステム、名濃、クラウド、パナ・ケミカル、協賛の発泡スチロール協会の9社。パナ・ケミカルが事務局(☎0120・15・8793)を務める。業界に呼称として普及する「資源プラ」は、「適切な前処理、中間処理を施すことで、全量再

生プラスチック原料の基材として利用できる品質を保持する」「輸出に供される処理物については、輸出に関する国内法および国際条約、輸出先の国内法に定める規制基準に適合する」など6項目の定義を定めている。ビレッジの山本製作所、日本シーム、サンモア、テクノリンクス、プラントシステムと、中村化成工業、本城化成、オーワックジャパン、本堀技術士事務所、エコシス・コンサルティングの合計10社が賛同している。専用サイト「資源プラ.com」も開設した。

プラスチックリサイクル事業は、昨年後半のナフサなどの石油製品価格底打ちや円安基調から一転、直近ではナフサ価格低下や円高反転など乱気流の状況



2016プラスチックリサイクルビレッジ参加企業の皆さん

業界に呼称として普及する「資源プラ」は、「適切な前処理、中間処理を施すことで、全量再

にある。さらに3月からは中国が再生資源・高品質のリサイクル加工が求められており、ライセンズ厳格化も盛り込んだ、通称「グリーンフェンス2」政策をなしている。国内外で高効率